

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年8月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■就農希望者 就農相談の実施

8月20日、関市内において露地野菜で就農を希望する方が来所されたため就農相談対応した。

来所されたのは20代中盤の男性で、会社で知り合った他の男性と2人で営農開始したいとの希望であった。品目は、夏秋なす、さつまいもで考えており、5年目には400万円強の所得確保を目指すものであった。

農作業の経験、農用地の確保、農用地の条件、周辺環境、栽培希望品目の栽培概要、農薬散布に係る地域住民との相互理解の醸成など、現状の認識や適性などの聞き取りを実施した。

計画内容の不備や冬期に取り組むことができる品目の検討などを指摘するとともに、関市やJAめぐみのへの訪問・通知についても助言を行った。

今後は関係機関とも連携し、計画の適正化に向けて協議を進めつつ、就農希望者への支援を続けていく。

(地域支援係)



【相談対応の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） ほ場審査

水稻採種ほ場のほ場審査が始まった。農業経営課、中濃・郡上・可茂農林事務所の職員が種子審査員となり、美濃市、JAめぐみの、JA全農岐阜、岐阜県米麦改良協会等関係機関の協力を得ながら実施している。

8月6日は「あきさかり」、9日は「ほしじるし」、16日は「ほしじるし」「モチミノリ」、28日は「みのにしき」「ハツシモ岐阜SL」の出穂期審査と「あきさかり」の糊熟期審査を行い、審査基準に基づき、変種・異品種混入、病虫害や雑草の発生状況を審査した。一部ほ場で雑草や病虫害の発生がみられたが、ほとんどのほ場は生育が揃い、よく管理されていた。

農業普及課では、ほ場審査を適切に実施し、水稻優良種子の確保につなげていく。

(地域支援係)



【ほ場審査の様子】

■大豆 順調に生育

中濃管内では、大豆「フクユタカ」が約160ha作付けされている。

7月中旬まで降雨が多かったものの、天候やほ場条件を確認しながら順調に播種作業が行われ、8月上旬には播種が完了し、現在は概ね順調に生育している。

大豆栽培において、当管内だけでなく広域で問題となる帰化アサガオ類の発生は、今年度も既に確認されており、JAめぐみと連携し除草剤での体系防除の指導を実施している。また害虫の発生も多く、雑草防除と合わせて適切な防除について情報提供を行っている。

農業普及課では、今後も引き続き雑草・害虫の発生状況を確認しながら、収量・品質を確保できるよう支援を行っていく。

(地域支援係)



【発芽調査の様子】

■夏秋なす 夏秋なす部会中央研修会

8月6日、岐阜県内の夏秋なす生産者、関係機関が出席し、県園芸特産振興会夏秋なす部会が主催する中央研修会が開催された。

現地研修は加茂郡坂祝町の3S栽培ほ場にて、室内研修はタウンホールとみかにて、3Sシステムの省力栽培と肥培管理について報告と指導があった。また、近年の高温対策として、遮熱、遮光資材の効果などについても情報提供が行われた。

ほ場視察、室内研修ともに、生産者が積極的に質問をしたり、講師の説明に熱心に耳を傾けたりする姿が見られた。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、夏秋なすの生産拡大を支援していく。

(地域支援係)



【ほ場視察の様子】

■ 有機農業 さんやほう向け「みのにしき」すくい取り調査

8月14日、特別純米酒「さんやほう」の原料として供給する地場米「みのにしき」栽培ほ場にて、品質低下に影響のある「カメムシ類」「ウンカ類」などの発生状況を把握するため、すくいとり等の調査を行った。

このみのにしきは、かねてから、化学合成肥料や農薬を一切使用しない方法で栽培が続けられてきたが、近年品質低下が顕著となり、その原因究明と今後の改善対策を検討するデータ収集の一環で、生育調査や病虫害発生状況の調査などを進めている。

この日の調査では、カメムシ類の捕殺は多くなかったが、ウンカ類（坪枯れの原因となるトビイロウンカは無し）が多く見られ、今後の発生量などを継続して調査することとした。

今年はこの後も、生育調査や坪刈りなども実施し、収量・品質などのデータ収集も継続する。

(地域支援係)



【すくいとり調査】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 栽培研修会&通常総会の開催

8月9日、中濃いちご生産組合（17名、1.9ha）は、JAめぐみの本店で栽培研修会及び第30回通常総会を開催した。

栽培研修会は農業普及課が講師を努め、一つ目は「ぎふ清流GAP」に取り組む目的やリスク評価、文書化の方法について説明し、取組みを誘導した。二つ目は、近年の高温により花芽分化が遅れて、年内収量が減少している状況を説明し、技術対策を進めるための現地調査の実施などを説明した。

総会では委任状を含む17名の出席があり、全ての議事が無事承認された。新規組合員が加入のあいさつを行い、また若手が一人増えるという明るい話題のなか、次年度は組合として55t以上の出荷を目標とする計画（R5年度実績は45t）が示された。

農業普及課では、ぎふ清流GAPの推進や収量の向上に向けて、若手組合員の技術研さんに取り組んでいく。

(地域支援係)



【総会の様子】

■ 円空さといも ほ場巡回

7月31日と8月6日の両日、JAめぐみの担当者と連携し、円空さといも全会員のほ場巡回を実施した。

円空さといも生産組合では、令和6年度は中濃管内で37名の部会員が栽培に取り組んでいる。梅雨明け後の高温少雨の影響で、一部のほ場では葉が焼けているものもあったが、その後の管理により、概ね順調に生育している様子であった。

- 農業普及課では、今後も引き続き生育状況を確認しながら、高収量・高品質のさといも生産に向けて支援を行っていく。
- (地域支援係)



【円空さといもほ場】

■ 花き 栽培調査データに基づく生産指導活動

8月14日、関市で鉢花を栽培する花き生産者を巡回し、生育状況と合わせて培養土中の土壌溶液の酸度と肥効状況の調査を行った。

中濃管内には、希少価値の切花「美濃菊」をはじめ、カランコエやポットマムなどの鉢花、ベゴニアやパンジーなどの花苗、ヒメイワダレソウなどのグランドカバープランツを生産出荷する花き生産者が10件ほどあり、一年を通して花きの生産出荷がある。

9月から、秋の寄せ植えなどに向くポットマムやハロウィン向けの鑑賞用のカボチャ、トウガラシ類の出荷を予定しているが、今夏の高温下での肥料効果と生育状況に不安があり、簡易ではあるが土壌溶液の化学性をモニタリングすることで、データに基づいた施肥改善を検討することとした。

今年の栽培概要や経過を聞き取るとともに、現状の生育状況と測定データをもとに今後の栽培管理を検討した。引き続きデータ収集に取り組む。

(地域支援係)



【生産者から聞き取り】

中山間地域を守り育てる対策

■ 地域計画 関市の地域計画策定に関する地域ごとの協議への出席

8月6日、関市田原地区の地域計画策定に係る「協議の場」に出席し、計画の素案作りを支援するとともに、持続的な地域営農づくりの課題についても意見交換を行った。

関市では、全13地区での計画策定を目指しており前年度に3地区の協議が終了している。今年度に入り残りの地区の協議が進められ、5月23日の下有知地区を皮切りに、市内6地区の地域計画策定に係る会議が開催され、順次出席し指導助言を行っている。

関市中央の平坦地域には多数の主要な担い手があるが、ひとたび中山間地域に入ると極端に担い手が減少し、集落営農組織があっても後継者がいないなど大きな課題があった。また、鳥獣被害対策や水路の補修、区画整理などの要望も多く、継続した協議が必要であると思われた。

関市はもとより、農業振興課やJAめぐみの等関係機関と連携し、継続した協議が実施できる体制づくりを進めるとともに、地域ごとの協議を始めていく。

(地域支援係)



【生産者から聞き取り】